

図書館での「調べ学習」のスキルを育て、2020年度からのアクティブラーニングに備えよう
—公益財団法人文字・活字文化推進機構で考える—

開倫塾

塾長 林明夫

Q 1 : 来年は2020年、いよいよ教育大改革としてアクティブラーニングが本格的にスタートするようですね。

A : はい。大学などの高等教育機関はもとより、小・中・高校でも、「先生が一方向的に知識を伝授する授業」から、予め与えられた課題について受講者が事前に「調べ学習」をして、自分の考えをまとめた上で授業に参加するという「アクティブラーニング」に、2020年度からの教育改革で、授業の方法が大きく転換されます。

Q 2 : アクティブラーニングで最も大切なことは何ですか。

A : (1)課題について授業前に準備する「調べ学習」です。
(2)何の準備もなしに課題を議論することも、時には必要でしょうが、課題について事前に徹底的に「調べ学習」をした上で、授業に臨むことを原則とすべきと考えます。
(3)次のようなことを考えることも「調べ学習」では大切です。
①「何が課題か」、課題の所在を明らかにすること
②その本当の原因は何か、原因を推定すること
③とりあえずどうすればよいか、「応急措置」を考えること
④長期的にはどのようにしたらよいのか、「システム改革」、「しくみを変える」こと

Q 3 : そのような「調べ学習」は、どこで行ったらよいと考えますか。

A : (1)授業前だけではなく、授業で興味・関心の深まったことがらについて、授業後の「調べ学習」にも有用です。
(2)授業前と授業後の「調べ学習」にとって最も役立つのが、学校や地域の図書館です。
(3)ただし、これからは、「アイウォッチ(ウェアラブル)」「 아이폰(スマホ)」「アイパッド(タブレット)」「パソコン」などが身近にあり、いつでも使用可能であれば、最大活用してインターネットで「調べ学習」をすることが大切。
(4)家庭でも可能ですが、現実的には、パソコンルームや、学校や地域の図書館の活用がお勧めです。

Q 4 : 学校や地域の図書館で「調べ学習」ですか。図書館はそんなに役立ちますか。

A : (1)アクティブラーニングが本格的に導入される2020年からは、学校や地域の図書館、もっと言えば、大学図書館の出番です。

(2)お勧めは、小学生、中学生、高校生、大学生は1日1回自分の通っている図書館に出掛ける習慣を身に着けること。週に1～2回は地域の図書館に出掛ける習慣を身に着けることです。図書館に行き、わからないことばがあれば辞書や事典で調べる、新聞を毎日読む、読書に励む習慣を身に着けることです。

(3)大学を含め学校の図書館は、各々の学校の「心臓部」ともいえるほど重要です。また、地域の図書館は、その地域の「学問・文化・情報の中心」、「図書館は知力を拡大する空間」(花村太郎)といえます。学校や地域の図書館を使いこなすことは、アクティブラーニングの前提となる「調べ学習」にとって役立つだけでなく、仕事や社会的活動、よりよく生きるために欠かせません。

Q 5 : 今、アクティブラーニングの「前提条件」とおっしゃいましたが、「調べ学習」の前提条件は何ですか。

A : (1)「読解力」を身に着けていることです。

(2)文字だけではなく、様々な情報を正確・論理的・分析的に「読み解く力」、つまり「読解力」こそが、アクティブラーニングやその前提となる「調べ学習」では求められます。

(3)「読解力」の前提は、「語彙力(ごいりよく)」、つまり、正確に身に着けている「ことば」です。「ことばは力」、正確に身に着けている「語彙数は力」です。

①わからないことばがあったら「気持ちが悪い」と思い、辞書や事典を用いて調べること。調べたことはノートやカードに書き写して繰り返し読み直し、その「意味」「内容」を正確に身に着けること。書き取り練習も怠らないこと。1日10回、辞書や事典を引くことを習慣にすれば、1年で3650、3年で1万のことばに慣れ親しむことができます。

②英語も、毎日10語ずつ辞書調べに励む。慣れてきたら、レベルに応じた「英英辞典」にも挑戦。

③古文も、毎日10語ずつ古語辞典を引くこと。

④今学んでいる各教科について、辞書や事典で、毎日10語ずつ、意味のよくわからない語句について調べ続け、身に着けることは、その教科に関係することばの数を確実に増やすことに役立ちます。これは、社会に出て、自分の専門領域の学習をするときにも役立ちます。

Q 6 : 辞書ですか。他にありますか。

A : (1)「読解力」を身に着ける第2の方法は、「新聞」を毎日30分以上、できれば1時間以上、一面から舐めるように読むことです。新聞は1紙だけでなく、できれば数紙を毎日1時間以上丁寧に読む習慣を身に着ける。

(2)新聞は5W1Hで、論理的・分析的・実証的に書かれていますので、「読解力」が身に着きます。「自分で考える力」「批判的思考能力」も身に着きます。

(3)これに加えて、英字新聞を毎日1時間以上丹念に読めば「英語の読解力」も身に着きます。

①英検準2級を取ったら、まずは読売新聞の英語版「JAPAN NEWS」に挑戦。英検2級を取って英語に慣れてきたら、次は「JAPAN TIMES」を毎日1時間以上読むこと。

②「読んでわからないことは聞いてもわからない」、これは語学学習の基本です。

③英字新聞を毎日 1 時間以上丁寧に読み続ける習慣を身に着けることは、英語のリスニング能力の飛躍的向上に直結します。

Q 7 : 辞書・新聞の他に「読解力」を身に着けるのに役立つことは何ですか。

A : (1)「本格的な読書」に励むことです。

(2)学校の教科書や小学校・中学校・高校・大学の先生方が紹介して下さる「これぞ」という「著者」の、「これぞ」という「本」を、じっくりと時間をかけ、腰を落ち着けて、一語一語、一文一文、丁寧に深く深く読む、行間も読み込む「精読」こそが、「読解力」を身に着けることに直結します。

(3)テーマや著者、作者別の「全集」は、脚注や解説が多くてとても読みやすいので、挑戦を。

①小学生には小学生に合った全集が、中学生には中学生に合った全集が、高校生には高校生に合った全集が、大学生には大学生に合った全集があります。社会人にも社会人に合った全集があります。

②興味のあるテーマや気に入った著者・作者を自分の力で探し出し、小学生、中学生、高校生、大学生のうちから「全集」に慣れ親しむことが「読解力アップ」への道です。

③本格的な読書は「思慮深さ」「省察力(自分を振り返る力)」を身に着けるのにも役立ちます。

Q 8 : そのような「読解力」はどこで身に着けたらよいですか。

A : (1)「学校や地域の図書館」です。大学生は「大学図書館」です。

(2)学校や地域の図書館は、「アクティブラーニング」の前提となる「調べ学習」とともに、「調べ学習」の前提条件である「読解力」を身に着けるのに極めて大きな役割を果たします。

(3)日本には、学校図書館や地域の図書館の振興についての「図書館基本法」がありません。「図書館基本法」を制定して、2020 年度からのアクティブラーニングを全面支援することを提案いたします。

Q 9 : 学習塾や予備校、私立学校の経営幹部の先生方にお伝えしたいことがありますか。

A : (1)学校や地域の「図書館の活用方法」について、是非、時間をとって正式に教えて頂きたいということです。

(2)できれば、年に 1 回でも、各教科の授業を「図書館」で行い、どのように「調べ学習」を行ったらよいかを具体的に御指導して頂きたく存じます。

(3)自宅や友人、知人の蔵書をいつの日か整理して、自宅の角や空いているテナントなどを活用して「街角図書館」を週に数時間でもよいですから開館。子どもたちや地域の方々とともに辞書や新聞、本に親しむことを御提案申し上げます。

①「1 週間分の新聞」を友人、知人とともに集めて、皆様に読んで頂く機会を提供することは、素晴らしい社会活動です。

②「朗読会」や「読書会」、「著者を囲む会」なども素晴らしい。

③「雑誌」や「報告書」「論文」などの「輪読会」も積極的に開催すべきです。

*「アクティブラーニング」を担当する先生方の授業のスキル向上も大事ですが、先生としての本格的な「学び直し」、とりわけ「基礎学力の育成」は急務です。

Q 10：林さんは、なぜそんなことを考えているのですか。

A：(1)2004年から2012年まで8年間栃木県教育委員会から栃木県社会教育委員を委託され、栃木県のみならず、各地の図書館を見学したからです。

(2)また、公益財団法人文字・活字文化推進機構の評議員として、図書館の振興について、議論しているからです。

(3)フィンランドにたくさんある「街角図書館」が、日本にもたくさんあればいいなと考えているからです。フィンランドはじめ、欧米諸国で行われているアクティブラーニングを担当する先生方とも、交流を深めて頂ければと希っています。

Q 11：最後に一言どうぞ。

A：今月も皆様がお読みになれば必ずお役に立つ本を何冊か御紹介させていただきます。

(1)1冊目は、花村太郎著「知的トレーニングの技術(完全独習版)」ちくま学芸文庫、筑摩書房2015年9月10日刊です。アクティブラーニングの前提となる「読み・考え・書くための技術11章」は参考になります。「図書館は知力を拡張する空間だ」(同書605ページ)には大賛成です。

(2)2冊目は、小室直樹著「論理の方法 社会科学のためのモデル」東洋経済新報社2003年5月8日刊です。「日本人のための憲法原論」「日本人のための経済学原論」「数学嫌いな人のための数学」など小室先生の一連の著作は、アクティブラーニングの前提となる「論理を自由自在に使いこなすためにモデルを自分自身で作る」上で極めて有用です。「モデルは論理の結晶」だからです。

*御承知の方も多いと思いますが、小室先生は①「数学者」②「経済学者」③「政治学者」④「宗教学者」⑤「社会学者」の各々として世界最高レベルの学者です。各方面でのアクティブラーニングを目指す先生方には参考になります。

(3)3冊目は、長谷川慶太郎著「2019長谷川慶太郎大局を読む」徳間書店2018年10月31日刊です。1928年のパリ不戦条約以前であれば、国家間の戦争の原因となっているような様々な出来事が世界各地で頻発している現在、軍事評論家でもある長谷川先生のこの最新著は参考になります。同著「クラウゼヴィッツ『戦争論』を読む」朝日文庫、朝日新聞社1991年5月1日刊と、同著「組織の自己改革法一軍隊式マネジメント比較」中公文庫、中央公論社1987年1月25日刊は、何度読み返しても日本や世界の安全保障を考える際に有益です。

(4)4冊目は、田中英道著「日本が世界で輝く時代 歴史と文化の『いぶし銀』の輝き」育鵬社2019年1月8日刊です。元号が変わる今年の一推しの本です。同著「日本人が知らない日本の道徳」ビジネス社2016年2月2日刊ともども是非、御一読を。田中先生は、イタリア美術史の第一人者のおひとりです。同著「レオナルド・ダ・ビンチ」講談社学術文庫、講

談社 1992 年 2 月 10 日刊や同著「ミケランジェロ」講談社学術文庫、講談社 1991 年 4 月 10 日刊、同編著「イタリア美術史東洋から見た西洋美術の中心」岩崎美術社 1990 年 8 月 10 日刊は、日本のよさ、日本の理解を深めると確信します。

(5)5 冊目は、和田裕著「風に向かって走れ」文芸社 2011 年 10 月 15 日刊です。通産官僚として前回の「大阪万博」を提唱、防衛庁の装備局長、シャープ副社長などで御活躍なされた和田氏の本著は、昭和と平成を「風に向かって走り抜」きました。さわやかな一代記です。是非、御一読を。

2019 年 1 月 6 日 林 明夫記